

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100299		
法人名	医療法人 社団 初心会		
事業所名	グループホーム みたき	ユニット名	櫛
所在地	仙台市青葉区八幡7-14-17		
自己評価作成日	R3/12/25		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4 年 2 月 8 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その方の誕生日には誕生会を開催し手作りのケーキなどでお祝いしたり、一緒におやつ作りを楽しんだり季節感を大切にしています。食事なども楽しんで食べていただけるようにスタッフ一人一人が工夫を凝らしています。フロアには、入居者様とスタッフの笑い声が絶えず、毎日特別なことはないけれど、時々楽しい施設作りを目指しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームみたきは2階建ての2ユニットで、JR仙山線葛岡駅から南に徒歩10分の住宅街の一角に在る。ユニット理念の「笑顔」を大切に、入居者の「希望は無理と思わないで、どうしたら叶えられるか」を考えて取り組んでいる。協力医と看護職員等の24時間サポートがあり、安心して過ごしている。家族からは「入居したら表情が良くなった」「食事が美味しい」と言っている等の声がある。飼っている羊が近所の子供たちに人気があり遊びに来ての交流に繋がっている。目標達成計画の「終末期に向けた方針の共有と支援」は、内部研修や看取りの体験を話し合い共有している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム みたき)「ユニット名 樺」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と各ユニットの理念をもとに、その理念が実践できるように日々のケアを行っています	法人理念を基にユニット毎に理念を掲げている。入居者に楽しんでもらい笑顔が見られるように、本人の希望を取り入れた支援をしている。開設記念の10月に全職員で振り返りの研修を行い実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常のあいさつや、野菜が多く採れたからとおすそわけをもらったり、雪かきも参加してくださる家庭も増えてきました	日常的に散歩や買い物時に挨拶や会話をしている。羊を飼って2年になるが近所の子供たちが見に来て交流が深まり、入居者の良い表情が見られている。駐車場が地域の緊急避難場所になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設周辺の散歩など通して、どのような方が施設に入居されているか			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が開催できていなかったため22年度は開催をし、サービス向上につなげていきたいと思えます	運営推進会議は開催しておらず、メンバーへの情報発信も行っていない。運営推進会議を実施して、そこでの意見等をサービス向上に活かしていただきたい。	運営推進会議年6回の開催を実施していただきたい。行政や他メンバーを招集し、会議を開催しサービス向上に活かしていただきたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの連絡や、生保の方の連絡などを密に取って対応を行っています	地域包括支援センター主催の「八幡連携の会」があり、3カ月に1回の研修会でオンラインやグループワークで継続している。市には入居者の問題を相談をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人自体が身体拘束を行わないことを原則としているので、どのようなことが身体拘束に当たるのかを考え、ケアに取り組んでいます	「身体拘束適正化委員会」を開催している。研修を行い、ダメと言わないためのケアに取り組んでいる。薬の調整で本人の状態が落ち着いたり、センサーやマットレスを敷くなど、転倒防止に対応している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながる不適切なケア、スピーチロックなどについての研修を行って、虐待が見過ごされないように注意を払っています	新聞等の記事から関連事例を取り上げ、高齢者虐待防止の理解に取り組んでいる。職員の口調がきついと気づいた時は対応し、「なぜを聴き取り」一緒に話し合い、改善に向けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の制度について学習し、制度を活用したご家族様の相談にも乗っていました		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族からの疑問などがあった場合には、できるだけ丁寧に対応を行っているつもりです		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	みたき通信などもできておらず、ワクチン接種などの限られたお知らせになってしまっていました	コロナ禍対策を守り15分面会をしていたが状況に合わせて、家族連絡は、電話で様子を知らせている。家族から「コロナが早く落ち着いて欲しい」などの声が寄せられている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングのほかに一人一人と話し、意見が反映しやすように努めています	職員の提案で大型加湿器と介護用イスを購入した。食材の冷凍肉から生肉の柔らかさを試して生肉使用になった。職員の子育てや家族介護の対応に、シフト調整を配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートなどを活用し個々の目標を把握でできたことや取り組みに対しては声掛けを行い努力を認めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修の機会が減っているので研修参加の機会を増やしていきたいと考えます。日々のケアについては、気づいたことを伝え実践と知識の向上に努めています		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は参加が滞っていますが、地域連携の会などへの参加、研修会への参加を促していきたいと思えます	地域連携の会が有り、在宅ターミナルケアの研修会等に参加した。法人内の専門職に協力をもらい、音楽療法で入居者が声を出したり、バイオリン等楽器演奏を聞いて楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どのようなことで困っているのか、なじみの関係などを活用し、みたきでの生活に早く慣れていただけるよう支援を行っています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族への説明を行い、認知症状などについても具体的に説明をし、ご家族の不安が少なくなるように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が 필요한のか、どうすればいいのかを一緒に考えることでどのような支援が必要かを見極められるようにしています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様にもできることには参加させていただき、ホーム内での生活を送っていただいています		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とも連絡を密に行いどのようなことが必要で、今後認知症状もどのようになっていくかを話しています		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の解除に伴い、少しずつなじみの方とのつながりの回復を行っています	馴染みの床屋が2ヵ月毎に入居者のカットに来訪している。訪問マッサージを受け馴染みになっている。ぬり絵等の趣味をいつでも出来るように支援している。遠方の親族には、月1回状況を連絡している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係や性格の把握を行い、職員も会話の中に参加し孤立しないように支援を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族様とも関係継続を行っています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に添えるように、希望やどのようにしたいか意向を確認するようにしています	日常の会話や散歩の時に聞いた「どこかに行きたい」や「食べたい」等の希望は、早々に対応している。言葉で伝えられない方には、日々の表情を見ながら変化を把握して支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドの情報の収集を行い、同様な生活環境かを理解することでより入居者様人寄り添えるように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ同士連携を取り、入居者様の状態の把握について意見交換を行っています		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に話し合いを行い、入居者様にとって何が必要か、現在の状態などについて理解し介護計画につなげていきます	随時の気づきや家族等からの情報をミーティングで話し合い、3か月毎にモニタリングで見直しをしている。食事の盛り付けや食器の拭き取り等をプランに入れている。筋力低下防止にドライブをプランに加えた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の確認と実践、職員間で情報を共有しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の希望を伺い、柔軟な対応を行えるようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人の相談員と連携を取り、入居者様にとってより良い方策がないか考え、支援を行っています		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の体調管理を行い、何かあれば外来、かかりつけ医と連携を取っています	協力医の訪問診療を全員が利用している。入居者の状態変化時の往診が有り、看護職員もいて24時間の対応サポートが出来る。歯科医の訪問診療と専門医受診も支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が中心となって状態の報告を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院の相談員の方との連携を取り、情報交換などを行っています		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	何が出来るのかをスタッフで話し合い、またご家族様の意向の確認を行っています	入居時に「入居者が重度化した場合における対応に係わる指針」で説明し同意を得ている。本人や家族の意向をふまえて、状態変化に応じて医師や職員が連携して取り組んでいる。今年度は4例の看取りを行い、終末期の対応に家族から感謝の言葉があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の体調の観察を行い、毎日の変化に気づき、情報共有できるようにしています。急変時には、看護師、管理者の指示などで対応できるようにしています		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練の実施、ハザードマップの理解を行っています	マニュアルを作成して、夜間と昼の火災想定で年2回実施した。通報や入居者の避難、水消火器操作の訓練を実施した。訓練報告書の記載がなかった。	訓練の評価や課題等、反省記録の整理で次回の訓練に活かせることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の性格や人柄を尊重し対応を行っています	呼び方は全員さん付けで、居室に入る時はノックをして「入ります」の声を掛けている。入居者の生い立ちや現在までを写真でまとめて「バイオグラフィー」として、職員が共有し本人を理解し尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の時間の希望や、日常の中でも入居者様の希望を聞きながら生活していただいています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況によって予定を変更したり、その方のペースに合わせて生活していただいています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んだり、ヘアカットの時、希望を聞いたりしています		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや、好み、食べたいものなどをお聞きし食事を楽しんでいただけるように工夫し、食器を拭くことを手伝っていただいています	ホーム菜園のトマトや青じそ、近隣からの差し入れ野菜を食事に取り入れている。誕生日は希望のちらし寿司等で喜ばれている。入居者の力を活かした、手作り干柿やどらやきも作って食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食形態や食事量を把握し、食事や飲水ができるように支援を行っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週の訪問歯科を活用し、口腔内の環境の把握、磨くポイントの把握に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに座れる方はトイレ誘導を行い、軽くできる方は軽くできるようにスタッフ同士話し合い、連携を取っています	排泄パターンを活用し、トイレでの排泄に取り組んでいる。オムツからリハビリパンツになり、下着にパットをあてる等改善がみられた。落ち着かない動作等の排泄サインには早目の誘導を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	甘酒やヨーグルトを提供し、腸内環境を整えたり、飲水を勧めたりし個々の排便パターンの把握に努めています		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週3回入浴を楽しまれる方や、日にちを変更するなどし、ご本人が入浴を楽しめるように支援を行っています	入居者の習慣や時間等の入浴希望に合わせて支援している。入浴を洗る方はシャワー浴やゆず湯で入れるようになった。重度な方は職員が2人対応で湯船で温まっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜遅くまでTVを見て過ごされる方や、状況に応じて休息していただいたりしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日常の記録ファイルにも内服薬を掲示し、そのような内容の薬を飲んでいるのか確認できるようにしています。日々の変化も申し送りノートを活用し確認を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴のは把握とともに、各入居者様の嗜好品を把握し、誕生日には食べたいものの提供を行っています		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出かけることはなかなか難しい状況ではあるが、一緒に散歩へ出かけたりしています	外気に触れる気分転換の散歩が多い。歩行困難な方はリフト付き車両でドライブ等、みんなで初詣や花見に出かけた。ホームの駐車場で芋煮やサンマを焼いて楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭をご自分で管理されている方もいらっしゃいます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くのを支援したり、電話の対応を行っています		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一緒に季節の壁飾りを作成したり、花を飾ったり、洗面所に飾り付けを行ったりしています	ホールは多くの時間を過ごすので、季節に合わせて壁飾りを作ったり、飾ったりして居心地良くしている。胡蝶蘭が見事で喜ばれている。ゲームや新聞を読んでいるうちに居眠りしたりと寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の状況を把握し、話がしやすい環境やゆっくりお部屋で過ごして頂いたりしています		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していたものや、写真などを飾っています	使い慣れたイスや鏡台、ミニ食器棚等を持ち込んでいる。孫や家族写真を飾り、居心地良く過ごしている。備え付けの姿見が身だしなみのサポートになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室は手すりを多く設置し、跨いで浴槽へ入ることができています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100299		
法人名	医療法人 社団 初心会		
事業所名	グループホーム みたき	ユニット名	蕃山
所在地	仙台市青葉区八幡7-14-17		
自己評価作成日	R4/1/5		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4 年 2 月 8 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様同士がお互いに気にかけて声掛けを行って、小さなコミュニティができています。常に歌声が聞こえるフロアで、その方ができることをお手伝いしてもらいながら入居者様とスタッフが協力しながら生活を送っています</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームみたきは2階建ての2ユニットで、JR仙山線葛岡駅から南に徒歩10分の住宅街の一角に在る。ユニット理念の「笑顔」を大切に、入居者の「希望は無理と思わないで、どうしたら叶えられるか」を考えて取り組んでいる。協力医と看護職員等の24時間サポートがあり、安心して過ごしている。家族からは「入居したら表情が良くなった」「食事が美味しい」と言っている等の声がある。飼っている羊が近所の子供たちに人気があり遊びに来ての交流に繋がっている。目標達成計画の「終末期に向けた方針の共有と支援」は、内部研修や看取りの体験を話し合い共有している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム みたき)「ユニット名 蕃山 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中にある施設を意識し、地域の方との関係性づくり、理念に沿ったケアを実践できるように努めています	法人理念を基にユニット毎に理念を掲げている。入居者に楽しんでもらい笑顔が見られるように、本人の希望を取り入れた支援をしている。開設記念の10月に全職員で振り返りの研修を行い実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などを行いお庭を見せていただくなどの地域交流は行っています	日常的に散歩や買い物時に挨拶や会話をしている。羊を飼って2年になるが近所の子供たちが見に来て交流が深まり、入居者の良い表情が見られている。駐車場が地域の緊急避難場所になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	どのような方が入居されているのか屋外の活用や散歩を通して地域の方の理解を深めています			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が開催できていなかったため22年度は開催をし、サービス向上につなげていきたいと思えます	運営推進会議は開催しておらず、メンバーへの情報発信も行っていない。運営推進会議を実施して、そこでの意見等をサービス向上に活かしていただきたい。	運営推進会議年6回の開催を実施していただきたい。行政や他メンバーを招集し、会議を開催しサービス向上に活かしていただきたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	仙台市からの連絡や情報を参考に感染予防やコロナの予防策を取っています	地域包括支援センター主催の「八幡連携の会」があり、3カ月に1回の研修会でオンラインやグループワークで継続している。市には入居者の問題を相談をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人自体が身体拘束を行わないことを原則としているので、どのようなことが身体拘束に当たるのかを考え、ケアに取り組んでいます	「身体拘束適正化委員会」を開催している。研修を行い、ダメと言わないためのケアに取り組んでいる。薬の調整で本人の状態が落ち着いたり、センサーやマットレスを敷くなど、転倒防止に対応している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながる不適切なケア、スピーチロックなどについての研修を行って、虐待が見過ごされないように注意を払っています	新聞等の記事から関連事例を取り上げ、高齢者虐待防止の理解に取り組んでいる。職員の口調がきついと気づいた時は対応し、「なぜを聴き取り」一緒に話し合い、改善に向けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の制度についての研修会への参加を行い、理解を深め必要であれば関係者と話し合い活用できるようにしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の不安が解消できるように会話を多くし、疑問点には答えるようにしています		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	みたき通信などもできておらず、細かな情報の発信ができていませんでしたが、入居者様の要望は反映できるように支援を行っていました	コロナ禍対策を守り15分面会をしていたが状況に合わせて、家族連絡は、電話で様子を知らせている。家族から「コロナが早く落ち着いて欲しい」などの声が寄せられている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングのほかに一人一人と話をし、より働きやすい環境を作れるように努めています	職員の提案で大型加湿器と介護用イスを購入した。食材の冷凍肉から生肉の柔らかさを試して生肉使用になった。職員の子育てや家族介護の対応に、シフト調整を配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートなどを活用し個々の目標を把握でできたことや取り組みに対しては声掛けを行い努力を認めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修の機会が減っているので研修参加の機会を増やしていきたいと考えます。日々のケアについては、気づいたことを伝え実践と知識の向上に努めています		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は参加が滞っていますが、地域連携の会などへの参加、研修会への参加を促し、交流を図っていきたくと考えます	地域連携の会が有り、在宅ターミナルケアの研修会等に参加した。法人内の専門職に協力をもらい、音楽療法で入居者が声を出したり、バイオリン等楽器演奏を聞いて楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人から出た不安なこと困っていることをユニット全体で考え、ご本人が安心して生活できるように支援を行っています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様には何か疑問があればいつでもどうぞと見学の段階から声をかけ、その後も積極的に声掛けを行ない、疑問や不安なこと、要望が出やすいように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人が何を必要としているか、どのような支援を行えば快適に過ごせるかを考え対応を行っています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来ることはお願いし、入居者様には充足感を感じていただけるように支援を行っています		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と入居者様との絆を大切にしながら、ご家族様ができることを一緒に考えています		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防に強めながら面会を行ったり、デイを継続して利用し関係が切れないように支援を行っています	馴染みの床屋が2ヵ月毎に入居者のカットに来訪している。訪問マッサージを受け馴染みになっている。ぬり絵等の趣味をいつでも出来るように支援している。遠方の親族には、月1回状況を連絡している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が会話をしたり、スタッフが間に入って関わったりし、お互いがお互いを気に掛ける関係ができています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かあれば相談をしてくださるよう声掛けを行っています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人のお話を聞き、ご本人の意向の把握ができるようにしています	日常の会話や散歩の時に聞いた「どこかにいきたい」や「食べたい」等の希望は、早々に対応している。言葉で伝えられない方には、日々の表情を見ながら変化を把握して支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントや聞き取りを行いその方がどのような生活をおくられて来たかを理解しケアにつなげられるようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の様子、精神状態を観察しどのような対応が必要かを把握できるように務めています		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングを通してどのようなケアが必要かを検討して、計画に反映させています	随時の気づきや家族等からの情報をミーティングで話し合い、3か月毎にモニタリングで見直しをしている。食事の盛り付けや食器の拭き取り等をプランに入れている。筋力低下防止にドライブをプランに加えた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を行い気づきを大切に、スタッフ同士が情報を共有できるように、介護計画に反映できるようにしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	何かあればその都度話し合いを行い、どのような対応ができかを検討しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人から出た不安なこと困っていることをユニット全体で考え、ご本人が安心して生活できるように支援を行っています		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の観察を行い変化があれば外来につなげ受診を行ったり、医師との関係をつなぎ	随時の気づきや家族等からの情報をミーティングで話し合い、3カ月毎にモニタリングで見直しをしている。食事の盛り付けや食器の拭き取り等をプランに入れている。筋力低下防止にドライブをプランに加えた。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携を取り、日々の状態の変化に対応できるように支援を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の経過や退院の予定の把握を行っています。また、同法人の病院の相談員とも連携を取っています		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期について考えていただき、その後状態のについて一緒にご家族様と考え対応を行っています	入居時に「入居者が重度化した場合における対応に係わる指針」で説明し同意を得ている。本人や家族の意向をふまえて、状態変化に応じて医師や職員が連携して取り組んでいる。今年度は4例の看取りを行い、終末期の対応に家族から感謝の言葉があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態の急変や事故発生時には速やかに連絡を取り合い、どのような対応を行うか検討しています		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を活用し災害時の連絡をおこなっています。また、ハザードマップの確認を行っています	マニュアルを作成して、夜間と昼の火災想定で年2回実施した。通報や入居者の避難、水消火器操作の訓練を実施した。訓練報告書の記載がなかった。	訓練の評価や課題等、反省記録の整理で次回の訓練に活かせることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格を尊重し言葉かけを行っています	呼び方は全員さん付けで、居室に入る時はノックをして「入ります」の声を掛けている。入居者の生い立ちや現在までを写真でまとめて「バイオグラフィー」として、職員が共有し本人を理解し尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人意向を確認し希望を聞いたり、どのような思いなのか推測したりしてケアにあたっています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調などを観察し、入居者様本人の意向も確認して過ごしていただいています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの準備の際、一緒に確認したりヘアスタイルなどの意向を確認しています		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後の食器拭きを手伝っていただいています	ホーム菜園のトマトや青じそ、近隣からの差し入れ野菜を食事に取り入れている。誕生日は希望のちらし寿司等で喜ばれている。入居者の力を活かした、手作り干柿やどらやきも作って食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすいように小さく切ったり、水分にとろみをつけたりし食べやすいように工夫をしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科診療を活用し、口腔内の状態の観察、口腔ケアを行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中と夜間のパットの使い分けやトイレ誘導を行っています	排泄パターンを活用し、トイレでの排泄に取り組んでいる。オムツからリハビリパンツになり、下着にパットをあてる等改善がみられた。落ち着かない動作等の排泄サインには早目の誘導を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜も柔らかく食べやすく工夫したり、ご飯に麦を入れたり工夫をしています		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	個々に応じて誘導を行い、気持ち良く入浴ができるように支援を行っています	入居者の習慣や時間等の入浴希望に合わせて支援している。入浴を渋る方はシャワー浴やゆず湯で入れるようになった。重度な方は職員が2人対応で湯船で温まっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の体調に応じて休息をとっていただいたり、その方に合わせた入床時間で休んでいただいています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人の内服薬について看護師をもとに理解を深めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の意向を確認し、歩行練習を行ったり、入居者様の好きなものを提供したりして、日々の中に楽しみを感じていただけるよう工夫しています		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外食の外出は以前行っていましたが、コロナ流行後は、機会がなくなっています。近隣の散歩を行っていますが、感染予防を行って外出を行いたいと考えます	外気に触れる気分転換の散歩が多い。歩行困難な方はリフト付き車両でドライブ等、みんなで初詣や花見に出かけた。ホームの駐車場で芋煮やサンマを焼いて楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布を持たれている入居者様もいらっしゃると思いますが、入居者様個々がお金を使用することは難しくなっています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎週電話をかけてこられるご家族様や、手紙が届いたりしています		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾り付けを行ったり、台所に扉を付け入居者様が誤って入らないように工夫をしています	ホールは多くの時間を過ごすので、季節に合わせて壁飾りを作ったり、飾ったりして居心地良くしている。胡蝶蘭が見事で喜ばれている。ゲームや新聞を読んでいるうちに居眠りしたりと寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置を工夫し、入居者様同士で会話をしたり、ゆっくり過ごせる空間を作っています		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前お家で使用していた椅子を持ち込んでいただいたり、サイドボードを持ち込んでいただいたりしています	使い慣れたイスや鏡台、ミニ食器棚等を持ち込んでいる。孫や家族写真を飾り、居心地良く過ごしている。備え付けの姿見が身だしなみのサポートになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なかなか理解が難しい入居者様に対してゆっくり説明を行ったり、身振り手振りで伝え理解を得ています		